

# ♪わが家のアイドル♪



錦織中  
竹之内 <sup>いちか</sup>唯華ちゃん(3カ月)  
これからもスクスク元気に育ってね♡



加太  
西野 <sup>あお</sup>碧桜ちゃん(1カ月)  
元気に生まれてきてくれてありがとう。大きく育ってね♡



緑ヶ丘町  
谷口 <sup>すず</sup>鈴ちゃん(2カ月)  
抱っこが大好きな甘えん坊♡元気に育ってね!

## 100歳 おめでとうございます!



7月31日、西本 アサエさんが100歳の誕生日を迎えられました。お話をするのが大好きで、とても元気な姿を見せていただきました。



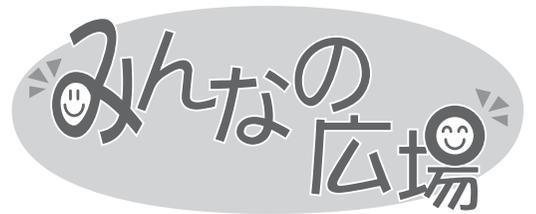
向陽台  
石田 <sup>かいと</sup>叶祷斗ちゃん(3カ月)  
よく飲んでよく寝てよく笑うかいとくん♪



加太  
屋宮 <sup>なるか</sup>成華ちゃん(0カ月)  
ママとパパは毎日幸せです!!!

### 宛先

住所・氏名(ふりがな)・電話番号	584-8511
	常盤町1番1号
	富田林市役所都市魅力課



川柳・短歌は、それぞれ別のがきで応募してください(1人各5点まで)。市内在住の人で未発表のものに限ります。作品の漢字や氏名には必ずフリガナをつけてください。  
11月号の「短歌」は9月30日(水)、令和3年1月号の「川柳」(宿題「器」)は11月30日(月)までに応募(いずれも必着)してください。  
宛先は右記をご覧ください。

俳句のコーナーは、都合によりしばらくの間、休ませていただきます。毎回お楽しみにされている皆様にはご迷惑をお掛けしますが、ご理解のほどよろしくお願ひします。  
※10月号は「川柳」を掲載します(なお、応募は8月31日で締め切りました)。

わが家のアイドル(対象年齢は4歳未満、兄弟・姉妹と一緒に写っている写真でも可)は、写真に、メッセージ(20字程度)を添え、住所、保護者とお子さんの名前(ふりがな)、撮影時の年齢(月齢)、電話番号を記入し、封書で上記の宛先まで応募してください。また、市ウェブサイトからもご応募いただけます(右図のQRコードから応募ページにアクセスできます)。なお、今応募された場合、掲載は約6カ月後になります。



林 高 齢  
田 富 最

# ご長寿インタビュー

敬老の日を前に、市内在住女性最高齢の谷本 喜美代さん（109歳、喜志）と、男性最高齢の津田 泰治さん（104歳、向陽台）を吉村市長が表敬訪問し、長寿をお祝いしました。  
今回の特集では、100歳を越えてもお元気なお2人から伺った、戦中・戦後のお話や長寿の秘訣などをご紹介します。

## 味のある声で詩吟を披露

谷本 喜美代さん

明治44年生まれの谷本さんは今年満109歳で市内最高齢。今でも、日常生活のほとんどのことを自分でされるくらいお元気です。103歳で大腿骨の手術を受けられた際も、その3日後には自力で歩かれたそうです。

**会社を切り盛りしながら子育てにも奮闘**

谷本さんは、19歳のときに鉄工所を営むご主人と結婚。ただ、戦後間もなくご主人が病死され、女手一つで会社を経営しながら、5人の子どもを育てられたそうです。

40代で経営を子どもに委ねた後、詩吟を本格的に始められたそうです。

今でもときどきデブイサービステ披露されるそうなので、聞かせていただけません



かお願いしたところ「短いのでよければ」と聞かせてくださいました。その味のある声に、聞いていた皆が拍手を送ると、少しはにかんだ素敵な笑顔を見せていらしていました。  
**ご家族の温かい雰囲気にも包まれて**  
長寿の秘訣をお伺いすると、「思っていることを言うこと。あと、何かあってもあまり気にしないこと」と話される谷本さん。同席されたご家族も「飯も好き嫌いなく食へるし、廊下を何往復も歩いている。元気でいてほしいから私たちもあえて世話を焼きすぎない」と顔を見合わせて笑う。このご家族の温かい雰囲気と協力も谷本さんの元気の源なのだと感じました。  
最後に、「暑い日が続きますがお元気でいてくださいね」と声を掛けると、「元気をもらいにまた来てくださーい」と笑顔で返される谷本さん。この明るさも長寿の秘訣なのかも。



使いこまれた詩吟詩集

## 人には親切に

津田 泰治さん

「今でも何でも記憶力がよい」とご家族お墨付きの津田さん。戦時中のごことや長生きの秘訣などをお伺いすると、さまざまなお話を教えてくださいました。

### 敵味方関係なく多くの命を救う

「運も良かった」と戦争当時は振り返りそう話される津田さん。

中国に出征した時は、戦地で騎兵として斥候（本隊の移動に先駆けて、進行方向の状況確認や敵を警戒する任務）を担っていたそうです。「戦争ではよーけ死んだ」と話されるとあり、すぐ隣にいた戦友が亡くなられ、自身の右耳にも弾丸が当たった話では、その傷跡とともに戦争の怖さを教えていただきました。

そんな戦場であって、津田さんは敵兵を一人も殺さ



なかつたそう、斥候として隊の先頭を走る際は「逃げる逃げる」と中国語で、現地の人が戦禍に巻き込まれないように逃げさせたエピソードなども話してくださいました。  
**長寿の秘訣は3食腹6分**  
何でも好き嫌いがなく食べるといって津田さん。長寿の秘訣をお伺いすると「満腹まで食べるのではなく、3食腹6分くらいなのがいいのかも」と教えてくださいました。また、「戦地でも眠れなくて困ったことはあまりなかった」など寝つきがよいことなども話してくださいました。  
最後に、「人には親切に。自分の力だけで生きていると思ったら大間違い。そういうふうには思うと長生きできない」と話された津田さん。その言葉には、ご家族や施設の人への感謝の気持ちが込められているような気がしました。



## 健康長寿への思いを込めて



7月13日、富田林市老人クラブ連合会女性部の皆さんより、手作りの「ひざ掛け」を寄贈していただきました。

これは、100歳の誕生日を迎えられる市民へのお祝い品として、また、いつまでも元気で長生きしてほしいという思いを込めて作られているもの。

今回インタビューを受けていただいたお2人にもお渡ししたところ「とても嬉しい」と喜んでおられました。